

真似する

1. 真似するのは発音だけではありません。
2. 声色や顔の表情も身体表現のうちです
3. 上手に真似するにはよく視ることが必要です。

真似するのは発音だけではありません。人は音声言語よりも身体言語から多くの情報を読み取ります。ましてや母国語でない言語を使う場合、身体言語なしでは気持ちを伝えることができません。テレビの「すべらない話」という番組を視ると芸人がいかに身体言語を駆使しているかが分かります。「犬が振り向いて吠えた」程度の話でも、芸人が物まねを交えて話すとぐっと生き生きした面白い話になります。同じ様にアメリカ映画を「視る」と身体言語が効果的に使われていることに気づきます。何かの速度が速い事を表現するのには、手を自分の前で横に早く動かしながら「ヒュー」という声を出せば簡単です。もちろん声色や顔の表情も身体表現のうちです。他にもこんな例があります。

片手の人差し指と中指を交差させるのは「fingers crossed」といって「神頼み」とか「運を天に任せる」という意味になります。「やることは全部やった。後はうまくいくよう祈るだけだ」という状況で半ばシャレで使う仕草です。言葉でいうと「Good luck!」です。

片手の手のひらをひろげて下に向けて揺らすのもよくやる仕草で、「まあまあ」という意味です。英語でいうと「So so」という表現です。顔をしかめて